

教育長紹介



茨城県

やぎはし つねき
柳橋 常喜

「人口減少や少子化など時代が急速に変化する中、子どもたちの柔軟な発想が重要になる。新たな時代に必要な人財育成を推進し、子どもたちとともに明るい未来を創るためには、学校・家庭・地域のつながりや協働が必要」と思いを語る。

「教育は社会にとって欠かせないインフラであり、教職員一同、安心安全な学校づくりを進めるとともに、他者への理解や思いやりのこころをはぐくんでいきたい。」と意欲を示す。

昭和63年に茨城県公立学校教員に採用され、学校教育部高校教育課長、学校教育部長などを歴任し、本年4月16日に教育長に就任。59歳

(茨城県教育庁総務企画部総務課長 宮崎 薫)



富山県

ひろしま しんいち
廣島 伸一

「本県教育行政の課題に誠心誠意取り組むとともに、県民の皆様の声をよくお聞きし、教育現場の状況の的確な把握に努め職責を果たしていきたい。」と抱負を語る。

また、「富山県教育振興基本計画の基本理念である『ふるさと富山に誇りと愛着を持ち、地域社会や全国、世界で活躍し、未来を切り拓く人材の育成』に取り組み、『真の人間力』を育む、本県ならではの教育を推進していきたい。」と意欲を示す。

昭和62年に富山県庁に入庁。教職員課長、商工労働部次長、中央病院事務局長、生活環境文化部長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。59歳。

(富山県教育委員会教育企画課長 板倉 由美子)



長野県

たけだ いくお
武田 育夫

「子どもたちが元気に過ごすには、先生たちが元気であることが必要。先生が自信と誇りを持ち、子どもたちと接することができる環境を目指し、問題解決に取り組みたい。」と抱負を語る。

また、「子どもたちの様々な居場所をつくっていくと同時に、学校が子どもたちを満足させる場所になっているか、改めて見直すことも必要。今までの考え方にとらわれることなく、楽しい環境にする工夫も考えていきたい。」と意欲を示す。

昭和56年、長野県公立学校教員として採用。伊那市立伊那小学校校長、教学指導課長、伊那市立伊那中学校校長、公益社団法人信濃教育会会長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。66歳。

(長野県教育委員会事務局教育政策課長 水野 恵子)



大阪府
みずの たつろう
水野 達朗

「今の子どもたちが将来ウェルビーイングの高い前向きな人生を歩むために、多様な学びの機会を創出し、将来的な自立の基礎を培うことをベースに、子どもを真ん中にしたワクワクする教育政策を立案していきたい。」と抱負を語る。

そのために、「経営者、支援者、公職者、保護者の4つの視点を大切にしながらマネジメントをしていくことで、ポジティブに、アクティブに、クリエイティブに学び続ける明日の『人財』の育成をめざしたい。」と意欲を示す。

民間企業の代表、文部科学省家庭教育支援の検討委員、中教審臨時委員、大東市教育長を歴任し、本年4月に教育長に就任。44歳。

(大阪府教育庁教育総務企画課長 平田 誠和)



奈良県
おおいし けんいち
大石 健一

「学校現場での指導や子どもたちの活動の中で見えてくるものがたくさんある。学校現場から教育長になった立場として、子どもの視点、学校の目線で、現場から目を離さずに、教育行政をしっかりと前へと進めていきたい。」と抱負を語る。

「家庭を離れ、一定の集団で過ごす学校教育にしかできないことがある。学校が子どもたちにとってどのような場所であるのがよりよいのか、教育委員会内外の意見を聞きながら、学校の魅力化に取り組んでいきたい。」と意欲を示す。

昭和62年に奈良県公立学校教員に採用され、学校教育課長、県立教育研究所長、県立畝傍高等学校長を経て、本年4月に教育長に就任。59歳。

(奈良県教育委員会事務局総務課長 安田 太津子)



岡山県
なかむら まさよし
中村 正芳

「少子化が急速に進む中、我が国や郷土岡山の将来、私たちの未来を託す子どもたちへの教育は極めて重要であり、その子どもたちが自らの可能性を最大限に引き出し、豊かな未来を切り拓くための土台をしっかりと築けるよう、全力で取り組みたい。」と抱負を語る。

また、「『学校を誰もが通いたくなる魅力ある場所にする』という目標のもと、子どもが真ん中の学校づくりを進める中で、教育DX等の「新たな学びの実装化」による学ぶ力の育成、不登校対策、働き方改革などを一体的に推進したい。」と意欲を示す。

平成2年に岡山県公立学校教員となり、県教育庁高校教育課長、学校教育推進監などを歴任。本年4月に教育長に就任。56歳。

(岡山県教育庁教育政策課長 小林 伸明)



広島県

しのだ さとし
篠田 智志

「すべての子供たちの健やかな成長のため、現場からの声に耳を傾けて、学校・地域のつながりを大切にし、関係する皆様と協働して風通しの良い『教育県広島』にしていきたい。」と抱負を語る。

また、「本県教育のさらなる飛躍のため、引き続き『学びの変革』を推進し、学校が地域と協働した課題解決に取り組めるよう、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）と地域学校協働活動の一体的な推進を図っていきたい。」と意欲を示す。

平成10年に旧文部省に入省。広島県教育委員会教職員課長、文部科学省初等中等教育局高校就学支援室長、外務省在大韓民国日本国大使館一等書記官、文化庁政策課長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。49歳。

（広島県教育委員会事務局管理部総務課秘書広報室長 竹森 潤一）



徳島県

なかがわ ひとし
中川 齊史

「個性と国際性に富み、夢と志あふれる『人財』の育成に向けて、あらゆる分野・世代のつながりを大切にし、誰もが輝く未来志向の教育施策を積極的に推進したい。」と抱負を語る。

また、「学校現場で培ってきた教育DXをはじめとする知見を活かして、ICTの積極的な活用、いじめ・不登校対策の推進、働き方改革によるより良い教育の展開等、常に子供たちのために何ができるのかを念頭に置いて邁進していきたい。」と意欲を示す。

平成2年4月に徳島県公立学校教員となり、三好郡東みよし町屋間小学校長を経て、本年4月に教育長に就任。58歳。

（徳島県教育委員会事務局教育政策課長 内海 はやと）



長崎県

まえかわ けんすけ
前川 謙介

「今年度スタートした第四期長崎県教育振興基本計画のテーマである『つながりが創る豊かな教育』の実現に向けて、これまで以上に関係者をはじめとする、県民の皆さまと共に多様な『つながり』を深め、未来を担う子どもたちを地域総がかりで育てていきたい。」と意欲を示す。

「現場で人と会い、交わした意見を発想につなげることを大切にして『子どもファースト』で教育課題に取り組む。」と信念を語る。

昭和62年長崎県庁に入庁。五島振興局長、企画振興部政策監、文化観光国際部長などを歴任し、本年1月に教育長に就任。好きな言葉は「笑顔」。61歳。

（長崎県教育庁教育政策課長 犬塚 尚志）



大分県

やま だ まさふみ
山田 雅文

「本県のすべての子どもたちが、未来を切り拓く力と、意欲を身につけられるよう、『教育県大分』の創造を進めていかなければならない。」と決意を新たにしている。「学校や社会教育施設など現場に足を運び、課題の把握に努めるとともに、市町村や知事部局をはじめ関係機関と緊密な連携を図りながら、全力で教育行政の舵取りに努める。」と抱負を語る。

また、「学校における働き方改革が喫緊の課題、教職員がいきいきと子どもに向き合える状況を作ることが使命、県民に近い目線で改革すべきことは改革するというスタンスで臨む。」と意欲を示す。

昭和62年大分県庁に入庁。知事室長、福祉保健部長、企画振興部長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。60歳。

(大分県教育庁教育改革・企画課長 鈴木 耕平)



仙台市

あま の げん
天野 元

「子どもたちの生きる力の育成に努め、いじめ防止や不登校児童生徒への支援など、教育課題への取組を進めるとともに、これからのまちづくりの原動力となる多様性を尊重し、互いを認め合う意識・態度の育成にも注力したい。」と抱負を語る。

「未来の担い手の育成と生き生きと学べる環境の充実について、社会環境の変化を注視し、現場の状況を把握しながら、市長との協議を深め、教育委員をはじめ地域、家庭、企業、NPOなどの皆様と力を合わせ、誠実に一步一步取り組みたい。」と意欲を示す。

平成3年仙台市に採用。文化観光局長、太白区長、市民局長などを経て、本年4月に教育長に就任。59歳。

(仙台市教育委員会事務局総務課長 中道 由児)



横浜市

しも だ やすはる
下田 康晴

「未来を予測することが難しい時代だからこそ、『横浜教育ビジョン2030』に掲げた、横浜の教育が目指す人づくりである、『自ら学び 社会とつながり とともに未来を創る人』の育成を目指し、職務に邁進していきたい。」と抱負を語る。

また、「子どもを真ん中に、学校や地域全体で温かく包み込みながら、ICTを効果的に活用し、一人ひとりを大切にしたい教育の実現に力を尽くしていきたい。」と意欲を示す。

昭和58年横浜市入庁。政策局政策部長、旭区長、デジタル統括本部長等を歴任し、本年4月に教育委員・教育長に就任。64歳。

(横浜市教育委員会事務局総務部教育政策推進課長 浦田 晴香)



相模原市

すずき ひでゆき
鈴木 英之

「自らたくましく自分らしく生きる力を身に付けることが大切、これからの時代に対応した教育を一層推進し充実していきたい。」と思いを語る。

また、「教職員一人ひとりが仕事を進める中で、気軽に相談ができ、適切な助言や支援が得られるような風通しの良い職場づくりも進めていきたい。」と意欲を示す。

昭和 58 年、相模原市役所に入庁。福祉部長、こども・若者未来局長、令和元年 10 月から 3 年間教育長を歴任し、教育局参与を経て、本年 4 月に 2 期目となる教育長に就任。65 歳。

(相模原市教育委員会教育局教育総務室長 沖本 健二)



新潟市

なつめ ひさよし
夏目 久義

「未来の新潟を築く子どもたちの心身ともに健やかな成長のため、本市の教育ビジョンに掲げる“学・社・民の融合”により、着実に人・地域・学校づくりを進め、このまちに住むことへの誇りと愛着を醸成していく。」と抱負を語る。

そのために「ICT の活用などを通じて、児童生徒一人ひとりが、より主体的に考え学ぶことの楽しさを知り、予測できない未来をたくましく生き抜く力をつけるよう、最大限に推進していきたい。」と意欲を示す。

昭和 61 年新潟市役所に入庁。秋葉区長、市参事・保健衛生部長を経て、本年 4 月に教育長に就任。60 歳。

(新潟市教育委員会事務局教育総務課長 渡辺 和則)



堺市

せき ゆりこ
関 百合子

「未来を担う子どもたちには、どんな状況にあっても主体的に考え、広い視野を持って自ら判断し、他者と協力しながら己の人生を切り拓いていく、たくましい力を身に付けてほしい。創造性や柔軟性を持った人材を育む教育行政の果たす役割は非常に大きい。」と思いを語る。また、「新たな学校のありかた『学校群』を着実に前に進め、ICT の活用やウェルビーイングの実現などに積極的に取り組み、教育現場と力を合わせて、子どもをはじめ、保護者、市民から信頼される組織を構築し、本市教育の更なる充実を図る。」と意欲を示す。

平成 10 年文部省採用。厚労省労働基準局室長、(独)グローバル人材育成部長、文化戦略官等を経て、本年 4 月に教育長に就任。53 歳。

(堺市教育委員会事務局教育政策課長 居谷 達矢)



神戸市

ふくもと やすし
福本 靖

「働き方改革等により学校園の活動が制限される中で、子供たちの多様な学びを実現するには、教職員だけでなく保護者の皆さまにも学校運営に参画してもらうことが必要」と思いを語る。

「神戸の子供たちのために関係する大人がしっかりと連携し、子ども真ん中社会の実現に向けて頑張りたい。」と意欲を示す。

昭和61年神戸市教育委員会に入庁。首席指導主事、中学校校長などを歴任し、令和4年兵庫県川西市教育委員会教育推進部参事、同理事を経て、本年4月に教育長に就任。62歳。

(神戸市教育委員会事務局総務部総務課長 吉田 高志)